

## 「橋上の里 AtoZ」

発行日 2021年3月31日

制作 京都産業大学現代社会学部滋野ゼミ  
庄司 拓矢  
木村 百花  
小川 夏花  
時井 美咲  
野間 和樹

協力 橋上の里  
滋野 浩毅 (京都産業大学現代社会学部教授)  
塩見 直紀 (半農半X研究所、総務省地域力創造アドバイザー)  
水田 ウタコ

発行 あやべ水源の里連絡協議会  
(綾部市役所 定住・地域政策課 上林いきいきセンター)  
京都府綾部市八津合町上荒木 5  
TEL 0773-54-0095  
MAIL teijyutiiki@city.ayabe.lg.jp  
HP <https://suigen-ayabe.com>



あやべ水源の里公式ホームページ



あやべ水源の里Facebookページ  
水源の里の「今」をお届け。  
イベント情報や水源の里の四季をどこよりも早くお伝えします。

KYOTO AYABE *HASHIKAMI no SATO* AtoZ

# 橋上の里 AtoZ



## MESSAGE

はしかみ

橋上の皆様と私たち学生が協力して作った冊子です。コロナの影響により数少ないフィールドワークでしたが、学生の視点から地域を見つめて、そこで発見した魅力が伝わる作品になっています。

大自然に囲まれ四季折々の景色を楽しむことができる橋上。無農薬で作られたゆずやきゅうりを使った漬物やマーマレードが特産品です。一度食べたらやみつきになること間違いなし！その他にも、橋上はたくさんの魅力に囲まれています。

景色や特産品に負けないほど集落の人々は魅力的です。皆さん優しく、全員で協力して活動をされています。この冊子を通して「橋上の里」の魅力が少しでも伝わることを願っています。

## ABOUT

橋上では住宅活用部の活動の一環で空き家を利用したUIターン者への手厚い支援を積極的に行なっています。その取り組みにより、人口減少を食い止めています。自然・食材・人…、様々な魅力に溢れているのが橋上です。

## 水源の里・橋上の里

人口 38人  
 高齢化率 60.5%  
 H20以降のUIターン人口 3人  
 世帯数 16世帯 R2.4.1現在



春

水仙、桜、藤の花など多くの種類の花が咲き誇り、橋上に絶景が広がります。

夏

上林川の恵みを受け、川遊びやアユを中心とした魚とりが行われます。

秋

橋上で生産が盛んなゆずや柿が実り、そしてまた、紅葉が色づく風景へと変化します。

冬

上林川の上流から流れてきた雪解けにより、水が多くなり、川の水量が豊かになります。

## contents

A Akiyariyo  
空き家利用

B Bukai  
部会

C Canoe  
カヌー

D Dam  
ダム

E Emblem  
エンブレム

F Fish  
魚

G Group  
グループ

H Hashi  
橋

I I-turn  
Iターン

J Jet coaster  
ジェットコースター

K kaki  
柿

L Location  
場所

M Maruyama Jinja  
丸山神社

3

N Noyaku fushiyou  
農業不使用

O Ohketsu  
おう穴

P Public hall  
公民館

Q Ori  
きゅうり

R River  
川

S Sakura  
桜

T Tesagyo  
手作業

U U-turn  
Uターン

V View  
景色

W Warm  
温かい人々

X Yuzu X Mulberry  
ゆず X マルベリー

Y Yuzu  
ゆず

Z Zen-In-De!  
全員で!

4



**空き家利用**

綾部市では、定住促進事業の一環として、市外からの移住希望者を受け入れるため、空き家を活用した住宅が市により整備されている。橋上では、「住んでよかった橋上の里」を合言葉に、人口増加を目標とし、移住者を迎えるためのさまざまな取り組みを行っている。

**部会**

橋上は、平成25年に「水源の里」集落の指定を受け、総数17戸全員の協力のもと、3つの部会で構成されている。住宅活用部、景観活用部、産品活用部だ。橋上地域を盛り上げるため、尽力されている。

**カヌー**

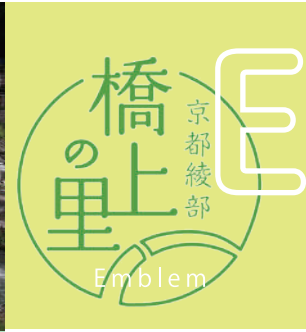
かんぼやし  
かつての上林川では、上流のダムの放流で水量が増すと、カヌー愛好家で賑わう光景が見られた。最近では、一部のカヌー愛好家たちの隠れスポットとして増水時、利用される姿が見られることがあるが、カヌーから見る、橋上の自然豊かな景色は美しいことだろう。



Dam

橋上を流れる上林川の上流にあるのが橋上堰堤。大正8年に建設された山家発電所での発電と農業用水の役割を担っている。発電所では年間430kw発電していたが、改良により、現在では750kw発電することができる。水資源を活かして電力供給を行い、山が地域を支えている。

### ダム（橋上堰堤）



Emblem

橋上の里のシンボルマークは、デザイナーの松原義之さんが考案したものだ。緑を基調としたシンプルなデザインは、橋上を代表するシンボルマークである。綾部市の水源の里と深く関わりがある上林川をモチーフにしている。

### エンブレム



Fish

橋上堰堤横に魚道があり、コイやアユなどの通路となっている。魚道での漁は禁じられており、魚がよく泳いでいる。今でも魚がいるが、昔は今以上に泳いでいたとのこと。川の水がきれいなので魚も住みやすいのでは!?

### 魚



Group

「あじさいグループ」というグループから引き継いだ、橋上の里産品活用部では、特産品であるきゅうり漬けやマーマレード、ジャムを作っている。かつては女性だけで構成されていたが、現在は自治会全員が参加している。

### グループ



Hashi

橋上公会堂の北側に照用橋、南側に五郎橋が架かっている。照用橋は橋上堰堤のすぐそばにあり、2年にわたって架けられた。照用橋を渡るとそこには急な坂が待ち構えている。五郎橋の手前には立派な桜の木が植えてある。五郎橋から川を覗き込むと、水面にきれいな景色が反射した姿がうかがえる。

### 橋



I-turn

町に住む鈴木さんは、2020年3月に三重県鈴鹿市から移住。綾部市は移住者を受け入れる制度が充実しており、若いころから田舎暮らしと農業をしたいという夢があった鈴木さんは、橋上にIターンを決めた。橋上の野菜がおいしいことや、自然豊かで景色がきれいなところに魅力を感じたという。

### Iターン



Jetcoaster

Kaki

照用橋の前に急坂がある。その坂を歩いて登るだけでいい運動になりそうなほどの勾配だ。私たちは息を切らしながら登ったが、橋上の方々が慣れた様子でスイスイと登っていく姿に驚いた。坂の上から車で下るとスピードが出過ぎてまさにジェットコースターになるんだとか。

## ジェットコースター

橋上のいたるところに柿の木がなっていて、橋上を歩いて一周しているときに常に目にしていたと言っても過言ではないほど沢山にあった。赤っぼい柿でとても甘く、吊るされていた干し柿をいただく、より甘さが増してとろとろとした食感だった。

## 柿



Location

橋上には京都北部と南部を結ぶとともに、京都市街地の外環状道路としての役割を担う、京都縦貫自動車道が貫いている。高速道路を使って、京都市内まで約1時間半で行くことができ、立地に恵まれている。

## 場所



Maruyama jinja

照用橋を通り急な坂を上った先に丸山神社はある。参道の中ほどに鳥居があるが、そこまでの階段の段差が高く上るまで意外と大変だ。低山の頂に開けた台地状の境内に本殿と境内社2社が祀られている。昭和59年に百年祭を開催した。

## 丸山神社



Noyaku fushiyou

橋上の里の特産品であるきゅうり漬けやゆずジャム、ゆずマーマレードは、安心安全がウリ。きゅうり漬けは、苗から無農薬で育てたきゅうりを使用。また、ゆずジャム・ゆずマーマレードは、橋上の里で育った無農薬ゆずのみを使用し、誰もが安心して、おいしくいただける。

## 農薬不使用



Ohketsu

おう穴とは河底や河岸の岩石面上にできる円形の穴のことを意味する。またおう穴は、昔その場所を川が流れていたこと示す、重要な手がかりにもなる。橋上に流れる上林川の近くにもこのおう穴があり、何百万年もかけて石が削られてでき、大きなものが残っており、昔のままの景観が残っている。

## おう穴



Public hall

住民が集まる“みんなの居場所”であり、年5回の住民参加の昼食会などにも使われている施設となっている。また、車椅子が通れるように建物の中の段差をなくし、冷暖房設備の設置、明るい照明器具への交換など、皆が利用しやすい施設づくりも行っている。現在は週1～2回、住民同士のコミュニケーションの場として利用されている。

## 公民館



Ori

橋上ではきゅうりの栽培に力を入れている。香り豊かなきゅうりの「シャキッ」と言う品種を苗から無農薬で育て、交代で朝夕の収穫、草取りを実施している。年間の収穫量は700kg～1tである。シャキシャキ感のあるきゅうり漬けをぜひご飯のお供にしてみてください。

## きゅうり



River

由良川につながる上林川が集落の中を流れている(上林川とは水源の里の元になっている川である)。また、川の景観を守るために年に4回の草刈り作業を行っている。きれいな川の景観を眺めることが出来るのは地域住民の努力のおかげである。この橋上の上林川を見るために毎年たくさんの人が訪れる。

## 川



Sakura

春の景観を代表するのが桜だ。見頃となる3月下旬から4月にかけて集落を桜や水仙が彩っている。桜の種類にはソメイヨシノや枝垂れ桜、また秋には、美しい紅葉などがあり、橋上の美しい川と桜と紅葉の景観は芸術的である。

## 桜



Tesagyou

特産のゆずときゅうりは収穫から加工まですべて手作業で行われている。ゆずはマーメイドやジャムにするために皮を剥き、種を取る作業。きゅうりは葉取りやきゅうり漬けのためのカット作業。すべて手作業で行い作られている橋上の特産品は地域の方々の愛情が感じられる。

## 手作業



U-turn

橋上では、Uターンする方を温かく迎え入れ支援している。40年間京都市内で消防士として勤務されていた四方<sup>しかた</sup>さんはUターンされ、現在は山家地区にある神社の宮司や橋上町の民生委員として活躍されている。人口は少ないが、その分町民の方と深く関わることができる暮らしに魅力を感じているという。

## Uターン



View

**景色**  
橋上は由良川に流れ込む清流・上林川が貫流する豊かな自然に囲まれている。春は川沿いに植えられている桜がとてもきれいに咲き、冬には周りの山々に雪が積もり美しい雪景色を見ることが出来る。写真を撮るもよし、景色をスケッチするもよし。四季折々で変化する絶景が楽しめる。



Warm

**温かい人々**  
橋上の皆さんはとても温かい人々である。私たちが初めて橋上を訪れた時にとても温かく迎えていただいた。約30人という少ない人口だが地域全体が家族のように関わり、笑顔が溢れているのが橋上である。一度訪れると必ずまた来たいと思うだろう。



Yuzu X Mulberry

**ゆず×マルベリー**  
「ゆずマル」は橋上で採れた無農薬のゆずと綾部のマルベリーを使ったジャムである。綾部ゆかりの桑の実（マルベリー）の食感を生かし、橋上の里で採れた無農薬ゆずと合わせ、他にはない甘さ控えめでさっぱりとした後味に仕上げている。ぜひ一度ご賞味あれ!!



Yuzu

**ゆず**  
橋上では無農薬でのゆずの生産が盛んだ。ゆずを仕分けて、ゆずマーマレードとゆずジャムに加工している。特にゆずジャムは「海フェスタ京都」で宮内庁がお買い上げになったほどだ。ゆず本来の香りと味を活かすため、甘さを控えめにした優しい味である。



Zen-In-De!

**全員で!**  
現在橋上では高齢化率が約60.5%と非常に高くなっている。しかし、「全住民が無理をせずに楽しみながら末永く活動する」をスローガンに支え合って様々な活動に取り組んでいる。実際に訪れて、私たちが感じた魅力や想いに共感していただければ幸いである。



## こぼれ話

平成28年度にゆずぼり(収穫)とゆずマーマレードの瓶詰め体験が開催された。主に大阪などの都市部に住む人たち25人が来綾!!さらに翌年の平成29年度には小学生を対象にきゅうりの収穫と塩漬け体験が行われた。(「ぼり・ぼる」は綾部弁で「もぐ、もぎる」「狩り、収穫」の意)



## MEMBER



橋上の里 会長  
佐々木 幸雄

橋上は美しい上林川をはさんで16戸の家が点在する小さな集落です。過疎を少しでも食い止めるように、また、みんなで元気に楽しく暮らしていけるように食品活用、景観活用、住宅活用の3部会の活動を全員で行い、交流、関係人口の増加に少しずつ取り組んでいます。



橋上の里  
四方 美子

橋上の里は上林川を挟み五郎橋より照用橋へ、又、五郎橋へと回れる市道が有ります。散策や早歩きに来られる人を見かけます。風光明媚な美しい地域です。どここの地域も同じですが、少子高齢化も進んでいます。若い人達に帰って来てほしいです。



橋上の里  
四方 久代

高齢化が進み一人暮らしも増えてきた今、お互いにこれまで以上に支えあい笑いのたえない村にしたいです。ふと見上げれば自然がいっぱい心をいやされ、どこからともなく、話し声や笑い声が聞こえてくる温かい村です。



橋上の里  
木下 千枝子

小さな集落にもかかわらず、何事にも力を合わせて頑張っている集落は魅力的です。



橋上の里  
四方 英一

橋上の里は山の間を川が流れて、その岸には桜やもみじ、水仙などが植えてあり景観もよく散策にはとても良い場所です。そんな中みんなが一つにまとまって水源の里を盛り上げています。ぜひ一度橋上にお越し下さい。



庄司 拓矢 京都産業大学滋野ゼミ

コロナの影響で満足に現地調査ができな中、橋上町の皆様を初め、市役所の方々、先生のお力添え、班のメンバーなどの手助けのおかげで冊子を完成することができました。とても感謝しています。この活動を通して自分自身成長できました。そして、橋上町が大好きになりました。



小川 夏花 京都産業大学滋野ゼミ

今まで京都で生活していましたが、綾部を訪れたのは今回が初めてでした。コロナ禍ということでなかなか現地に行くことができず不安もありましたが、村の方々がオンラインで対応してくださったり、現地に行った時には温かく迎えてくださりました。そんな村の良さを知っていただけたらと思います。



野間 和樹 京都産業大学滋野ゼミ

地域の方々とお話させていただいたり、橋上町を散策したりする中で、地域の方々の温かさ、美しい景色など多くの魅力を発見することができました。AtoZ冊子を手に取り読んでもらうことで、橋上の魅力を感じて頂けるでしょう。



木村 百花 京都産業大学滋野ゼミ

こういった状況の中、なかなか現地に行くことができず不安な気持ちもありましたが、いざ橋上の里を訪れ、地元の人と触れ合うことで人々の温かさや集落ならではの発見などができ良かったです。この冊子を通じて、様々な方に橋上の魅力を知ってもらえたら幸いです。



時井 美咲 京都産業大学滋野ゼミ

AtoZ作成にあたり、多くの方々にお力添え頂き、橋上町の魅力がいっぱい詰まった冊子を完成させることが出来ました。1人でも多くの方に、この冊子を手に取っていただき、橋上町を訪れてくださることを心から願っています。



滋野 浩毅 京都産業大学教員

今年度の『AtoZ』は、コロナ禍の影響で十分な現地調査ができない中で冊子作成となりました。それでもオンライン取材を駆使したり、橋上の里の皆様、綾部市定住・地域政策課の皆様のおかげで、これまでと遜色のないものができたこと、改めて御礼申し上げます。